

令和 7 年 度 自 己 評 価 表 中間評価

鳥取県立皆生養護学校

中長期目標	自己の生き方を探求していく人の育成 ～すべての人が自分らしく輝いて生きる 社会づくりを目指して～	今年度の 重点目標	① 主体的な学びの実現 ② 地域社会で豊かに生きる学びの実践 ③ 安心・安全な学校体制の構築 ④ 分担と協働による学校運営
-------	--	--------------	--

年 度 当 初						評 価 結 果 （ 9 ） 月		
学部・分掌	評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
幼稚園・ 小学部	①主体的な学 びの実現	①主体的な学びの実現 に向けた、授業力の向 上	・昨年度、自立活動の指導 において学習グループで流 れ図を作成し、指導内容決 定までのプロセスについて 共有を図ることができた が、授業改善までには至ら なかった。	・自立活動の指導の において、個々の実 態把握、ねらいを明 確にした具体的な指 導の実践や評価を行 い、指導の工夫や改 善を図る。	・外部専門家等の指導助言及び活 用シートを活用し、学習グループ 間で情報を共有する。 ・自立活動部等と協働しながら、 自立活動に係る研修を開催する。	・外部専門家からの 指導助言を学部 内で共有したり、 指導助言に係る内 容のミニ研修会を 学部会で行った りした。 ・授業づくり推進 日等を活用し、指 導に係る動画を学 習グループで共有 したり、授業改善 に向けた意見交換 を行うことがで きた。	B	・自立活動の指導場面の 動画や画像を効果的に活 用し、指導目標達成に向 けて、指導内容・支援に ついて各学習グループ間 で検討し、授業改善を行 う。
	②地域社会で 豊かに生きる 学びの実践	②身近な人と共に活動 できる力の育成	・昨年度の学部研修で実際 に行っている授業をキャリ ア教育系統表で振り返り、 幼児児童の未来について考 えることができた。	・幼児児童の未来に 必要な力をグループ 間で共有し、授業が 展開されている。	・教師間の情報共有、学部研修を 実施する。 ・身近な大人や友だちとの関わり を広げ、個々に応じたコミュニ ケーション力を育てるため、体験 的な学習を設定する。	・週1回の学習グ ループの型会を有 効に活用し、チー プを中心に幼児児 童の未来の姿を考 えながら日々の授 業づくりを行っ た。	B	コミュニケーション手段 としてi p a dや視線入 力装置等のI C T機器が 有効に活用できないか各 学習グループで情報共有 を行ったり、自立活動部 等と連携を図ったりす る。また、幼児児童の卒 業後まで必要な力につ いて考えることができるよ う学部研修等を行う。
中学部	①主体的な学 びの実現	①生徒の興味関心を学 びの入口とし、自ら進 んで取り組もうと思え る授業づくり	・昨年度、生徒の情報共有 や学習計画の検討に使える ように、学部会の時間を調 整したり、定期的に学習グ ループの会をもてる時間を 確保したりすることがで き、有効であった。 ・生徒が「わかった」「ま たやってみたい」と感じら れるような授業づくりに取 り組んだ。この取り組みを 振り返り、今年度の授業づ くりで取り組みたいこと について検討し、学部内で共 有を行った。	・生徒のつぶやきを 大切にし、疑問や気 付き、興味関心を学 習の中で活かした授 業づくりをしている。 ・生徒が「わかった」「ま たやってみたい」と感じら れるように、学習グループの会 の時間を確保し、情報の共有や検討 できる時間を確保する。 ・生徒に対し、学習アンケートを 年2回（前期・後期）実施し、授 業づくりにフィードバックする。	・受け身でなく、生徒自らが取り 組みたくなるような学習を目指 し、自己選択・自己決定の機会や 興味関心のあること、生徒自身が 抱いた疑問や気付きを学習に取り 入れる。 ・チームとして生徒の教育にあた れるように、学習グループの会 の時間を確保し、情報の共有や検討 できる時間を確保する。 ・生徒に対し、学習アンケートを 年2回（前期・後期）実施し、授 業づくりにフィードバックする。	・型や学習グルー プで学習計画を検 討する際に、生徒 が主体的に取り組 めるしかけ（自己 選択・自己決定の 機会、興味関心な ど）を取り入れる ように心がけた。 ・生徒アンケート でも、全員の生徒 が自己選択・決定 の機会があり、興 味関心を持って学 習に取り組めたと 答えている。 ・掲示板等を利用 することで学部会 の時間を短くし、 型で話し合う時間 を確保した。	B	・引き続き、学習グルー プや型での時間を確保 し、後期の学習でも生徒 が主体的に学びに向かう しかけづくりに取り組ん でいく。 ・自己を振り返る視点を 大切にし、お互いに関わ りやすい雰囲気や信頼関 係の構築に努める。
	②地域社会で 豊かに生きる 学びの実践	②自分なりのコミュニ ケーション手段で他者 と関わり、他者に受け 入れられたり、他者を 受け入れたりして関わ ることの良さを感じら れる活動の充実	・近隣の中学校との交流が 再開したり、地域の方と交 流したりする機会はあった が将来へ向けて広げたり深 めたりしていく必要があ る。	・自分なりのコミュニ ケーション手段を もち、他者と関わり 合うことの良さを感じ られる活動を行っ ている。	・学部内の他のグループや、他学 部と生徒同士が関わる機会を設け る。 ・生徒の既存のコミュニケーショ ン手段を把握、共通理解するとと もに、コミュニケーション手段の 多様性を広げる。 ・生徒に対し、学習アンケートを 年2回（前期・後期）実施し、授 業づくりにフィードバックする。	・それぞれの生徒 が自分に会ったコ ミュニケーション 手段をもち、職員 間で共通理解に努 めている。 ・学部内外で生徒 同士が関わり合う 機会をもったがは 十分でなかった。	B	・地域との交流や学部内 での関わり合う機会を きっかけとして、他学部 とも関わり合う機会をもち、関わり合うことの良 さを感じられるように努 める。
高等部	①主体的な学 びの実現	①主体的な学びを引き 出す授業づくり	・自分の思いを自ら表現す ることに学習の中で取り組 んでいるが、受け身になる 場面も多くある。様々な場 面で「自分から」「やっ てみよう」という気持ちを高 め、社会参加につなげた い。	・生徒が主体的に学 ぶ姿をグループ等で 共有し、それを引き 出すことを意識した 授業づくりをしてい る。	・個々の生徒が主体的に学ぶ姿に ついて、学習グループで話し合う 機会を設定する。 ・主体的な学びに向けた効果的な I C T機器の活用について学部研 修を実施したり、目的や効果を共 有する時間を設けたりする。	・グループの教員 間で、日々の学習 やスボレク祭、交 流学習の際の生徒 の主体的な姿につ いて話し合い、そ の姿に向けて、教 師がどんな関わり をしたら良いかを 検討、共有した。 ・I C T器機は各 教員が試行錯誤し ながら学習に取り 入れている。	B	・引き続き主体的な姿を 具体化し、それを引き出 すための学習内容や生徒 への接し方について、話 し合う機会を設定する。 ・I C T機器についての 学部研修の実施や、現在 の取り組みの共有を行 い、目的や効果について 考えていきたい。
	②地域社会で 豊かに生きる 学びの実践	②社会とつながる学び の充実	・昨年は新たに高等学校と の交流及び共同学習を実施 し、生徒全員が他校と交流 する機会をもった。目的の 明確化や計画的な実施が必要 という教職員の声が多く 挙がった。	・他者や社会とつな がる学習において、 目的を意識して計画 したり学習したりし ている。	・見通しをもって取り組めるよう に、早めの計画や職員への周知、 計画的な事前事後学習を実施す る。 ・教職員間や生徒との対話を通し て、交流学習の目的や内容、方法 について、検討・共有する。	・高等学校と3 回、特別支援学校 と5回の交流及び 共同学習を実施し た。学部会で早め の計画の周知を行 い、ねらいや内容 について確認し た。	B	・引き続き、他校や地域 との交流及び共同学習を 計画的に実施する。 ・前期の学習の様子を振 り返ったり、より相手に 伝わるような関わり方を 考えたりできるような事 前事後学習を実施する。

教務部 教務課	①主体的な学 びの実現	①主体的な学びを実現 するための教育課程の 編成	・重複障がい学級の2つの 類型を1つに統合し、医療 的ケアの内容を教育的に捉 え、自立活動の時間が充実 するように教育課程の編成 をした。これらの評価・改 善をするだけでなく、今後 も子どもの主体的な学びが 実現するように、改善すべ きところは改善していく必 要がある。	・子どもの主体的な 学びを実現するため の教育課程を編成し ている。	・課内で、どのような視点で教育 課程の改善を図るのか、各学部 にどのように伝え、何を検討する のか、教育課程検討委員会 で何を協議するの か等を共有する。 ・教育課程検討委員会では協 議事項と各学部で協 議することを整理する。 ・「個別の指導計画作成につ いて」「評価について」等の研 修を行うとき、これらが教育課 程の編成につながることも伝 え、意識を持てるようにす る。	・課内で、教育課程検討委員 会での協議事項や学部で何を 伝えるののかの共有を大切に した。 ・検討委員会では、確認事項 や協議事項、今年度のゴール を明確にし、様々な助言を受 け、助言を踏まえた上で全 体周知した。 ・学部ごとに教育課程の検 討に入る前に一人一人が編 成に関わっていることを全 体周知後、学部での検討に 移った。ただ、今年度考え ていくことが多い中時間の 確保が不十分であったこと と、いつまでに何を するのかを明確に示せ	B	・学部や学習グループで検 討できる時間の確保をする。 ・第2回教育課程検討委員 会で、いつまでに何を しなければいけないのか 提示し、助言を受け全 体周知をする。 ・今後も、学部会等を通 して教育課程の編成に一 人一人が関わっているこ とを伝え続ける。
	④分担と協働 による学校運 営	④教務関係業務のス ムーズな推進	・教務課内で大切にしてい きた「早めに周知をする」 「事前にどんな準備をし て、会では何について話 し合うのかを視覚的に提 示する」を、今年度も大切 にし、より分かりやすい発 信をしていきたい。	・教職員が見通しを持 って業務を進めてい る。	・課内で、いつ何を全 体周知するのか共有す る。 ・担任が見通しを持 って担任業務を行える ように、早めに且つ視 覚的に、することを提 示する。 ・全体周知する時に、 することをワンペー パーにまとめる・色 分けをする・マーク をつける等の工夫を する。 ・長期休業中は会 の設定を工夫し、見 通しを持って新学期 の準備を進めたり、休 暇を取りやすくなり たりする。	・課内で、どのタイ ミングで何を伝える のか話し合い、早 めに周知することに努 めた。また、全体周知 するときに、するこ とをワンペーパーに まとめる・色分けを する・マークをつける 等の工夫をして提 示した。 ・夏季休業中は、午 前に全体の研修や会 議を設定し、午後は 各自の仕事をしたり 休暇をとったりでき るよう工夫をした。	B	・今後も早めに分 かりやすく周知す ることに努める。 また、今年度異動 してきた教職員に は個別に声をかけ、 コミュニケーション も大切にする。 ・2学期も大きな 行事や校外学習等 ある中で、見通し を持ってそれぞれの 業務ができるよう、 行事予定に各自の 仕事ができる日に マークをつけ行事 予定を提示する ときに呼びかける 等の工夫をする。
教務部 学校行事課	①主体的な学 びの実現	①行事を通して人 とのつながりを感じ たり、もてる力を発 揮したりできるよ うな環境づくり	・職員アンケートでは 皆生スポレク祭と皆 生・プライト・フェ スティバルで、人 とのつながりが感 じられたと、高い 肯定的評価があ った。行事にお いて、目指す子 どもの姿「つな がろう、つたえ よう、やってみ よう」により近 づくために、環 境づくりを意図 的に仕組む必要 がある。	・幼児児童生徒が、 行事を通して人 とのつながりを感じ たり自分の持てる 力を発揮したり できるように環 境を整える。	・皆生スポレク祭、 皆生・プライト・ フェスティバルで は、いろいろな 人と触れ合う場 面を意図的に設 定し、学級や学 部の枠に囚われ ることなく、お 互いに伝え合 い、かわり合う 場を仕組む。 ・各行事の目標 やねらいを明確 にして、見通し をもって計画で きるよう配慮し たり教職員に呼 びかけたりす る。 ・わくわく体験、 芸術鑑賞教室 では、五感に働 きかける活動 を設定する。	・皆生スポレク祭 では、学部の 枠を解いて縦 割りチームを 構成し、色々 な人と触れ 合う場面を 設定すること ができた。 ・新しい取 組みで、見 通しが持ち にくいこと や戸惑うこ とがあった。 ・わくわく 体験では、 国立音楽院 による生演 奏の鑑賞や 楽器に触 れる体験 を通して、 交流の場 を持つこと ができた。	B	・皆生・プライト・ フェスティバル では、児生 会によるふ れあい活動 を予定して いる。教職員 に活動のね らいを呼び かける。 ・後期のわ くわく体験 では、マッ サージを計 画している。 感覚刺激を 通して、人 の温もりを 感じたり相 手とのやり とりを楽し んだりする 活動をする。
教務部 情報機器管理課	①主体的な学 びの実現	①ICT機器の有効活 用の推進	・教育活動や校務にお いてICTを活用でき るよう、機器の整 理整頓・整備、 フォルダ階層構 造の再構築とデ ータベースの改 善を進めてきた。 ・ICT活用に関 して、掲示板、 研修、書籍の紹 介などでの情 報発信や提案を 行ってきたが、 自立活動部や インクルーシブ 教育推進部と 連携することで、 子どもたちの 主体性を引き 出し、可能性 を拡げるため のICT機器の 活用が期待で きと考える。	・ICT機器を活用 することで期待 される効果につ いての発信や ICT機器の整 理整頓・整備が されており、 教育活動で ICT機器を活用 することが増 えている。	・ICT支援員との 連携を高め、 教育活動に関 わる情報共有 を図る。 ・教育活動にお けるICT活用で 期待される効果 について、定期 的に情報収集 と発信をする。 ・自立活動部や インクルーシブ 教育推進部と 連携を図り、 ICT機器を効果 的に活用できる 機会を設定す る。 ・ICT機器の利 活用について、 定期的に活用 状況や課題を 確認することで、 今後のICT機 器の利活用 に活かす。	・ICTサポート 事業を活用し、 支援員から得 た情報を掲示 板で周知した。 また、ICTを 活用すること で期待される 効果について 発信した。 ・自立活動部 やインクルー シブ教育推進 部と合同で、 研修を企画し、 ICT機器を活 用する視点に ついて学ぶ機 会を設定した。 ・教職員アン ケート等を活 用し、ICT機 器の活用状況 や今後知り たい内容につ いて情報収集 を行った。	B	・ICT機器の活用 方法を発信す るため、引き 続きICTサポ ート支援員 に相談したり、 助言していただ いたりする機 会を作る。 ・随時、機器 の更新と整備 を行い、ICT 機器を使用 できる環境を 整える。 ・教職員アン ケートの結果 に基づき、 ICT支援員 とつないだり、 機器の操作 や使用方法に ついて情報共 有を図ったり する。
自立活動部 学習支援課	①主体的な学 びの実現	①情報提供の工夫	・自立活動をはじめ、 学習支援に関 しての教職員の 要望が多岐に わたる。「身体 へのアプロー チ」は、依然 として要望が 多い。	・自立活動部から 発信する情報 が、実践で抱 える課題の解 決に役立って いる。	・研修の日程や 内容、開催方 法の工夫 ・教材の整理 ・研修動画や 教材の情報等 提示の工夫	・自主研修会を3 丁場同時に設 定することで、 教職員それぞ れの関心や要 望になるべく 応えられるよ うにした。 ・研修動画や 教材の管理に ついては、最 適な方法を 検討している。	B	・のびのびルーム を中心に、 教材の整理 や情報の提 示についてさ らに工夫検 討していく。
		①自立活動にお ける専門性の 向上	・教職員の多岐に わたる要望に 応じるため、 分室内で専門 性を維持して いくことが 必要である。	・自立活動の専門 性向上のため に、各部署が 年3回以上情 報発信する。	・外部専門家の 有効活用 ・部会の時間 を利用して ケース検討会 等を実施 ・自立活動夏 季研修会の 実施	・外部専門家の 活用が効果 的になるよう に、活用シー トで取組みを まとめること ができた。 ・夏季研修会 は参加した 教職員の評 価が高く、 自立活動部 の学びにも つながった。	B	・外部専門家の 積極的な活 用につながる ように、活用 シートを誰 もが手に取 りやすい環 境に整えたり、 自立活動部 が帯同でき る機会を増 やしたりす る。
授業づくり・ 研修課	①主体的な学 びの実現	①自立活動の「流 れ図」を活用した 授業づくりと 授業改善	・昨年度、自立活 動の「流れ図」 をグループで 作成すること を通して、作 成手順につ いては周知 できた。し かし、それ らを活用した 授業づくり や授業改善 については、 実践を重ね ながら研 修を深める 必要がある。	・流れ図を活用 して、根拠に 基づいた実 践ができ ている。 ・PDCAサイ クルを循環 させた授業 改善ができ ている。	・流れ図の考 え方や作り 方について の基礎研修 の実施 ・幼児、児童、 生徒の実態 等を共有し やすいグル ープ編成の 工夫 ・各グループ のファシリ テーターと の情報共有 と、協議が 円滑かつ 深まる工夫 ・各グループ 1回以上の 公開授業 の実施 ・外部アド バイザーの 有効活用。	・5月に流れ図 についての 基本研修を 実施した。 ・6月に補助 資料（課題 関連図等） についての 提案を行 った。 ・授業づくり 各グループ で流れ図を 2～3名分 作成した。 ・自立活動部 が流れ図作 成に関わり、 実態を見る 視点や課題 整理の仕方 について助 言を行った。 ・グループ 研修の際、 時間が足り ない場合 や、勤務時 間の関係 で少人数 での実施 となり、 話し合い が難しい 場合があ った。	B	・グループ研修 では、1時間 の使い方を 図で可視化 すると共に、 タイムキ ーパーを 設けて時間 内にまとめ できるように する。 ・少人数で 話し合う場 合はアイ デア出しを 中心にし、 型の会等 を活用して 意見を集 約する。 ・今後、外 部アドバイザー を活用した 授業公開 と指導助言 を、各グル ープ1回以 上計画して おり、授業 改善を進 めている。

様式 3

支援部 進路指導課	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②地域社会で豊かに生きるための進路指導の充実とキャリア教育の推進	・キャリア教育や進路指導についての理解が進む一方で、教職員の中で経験の有る、無しで二極化が現れ始めている。 ・現在の取り組みが将来のどのような姿につながるかのイメージが具体的でない。	・教職員が将来の豊かな生活について考える機会に参加している。 ・研修会や学習会などで教職員が意見を交換している。	・卒業後の生活のイメージが深まるように、卒業生や関係機関の事例を学ぶ機会を設定する。 ・研修会や学習会など、教職員が学び合う機会に意見交換の場面を設定する。	・年度初めの全体研修と高等部チューニングウィークに向けての研修は予定通り行うことができた。初任者研修にキャリア教育の時間を設定し、意見交換や疑問に答える形で学び合いの機会を設定した。夏期休業中に事業所見学企画し、事前にミニ研修を組み込んで効果を高めた。	B	・研修への参加率を上げるために、日常的に行われる行事や会に組み込むなど、機会を逃さず、時間や場所、周知の方法などを工夫して研修の幅を広げていきたい。参加人数が増えることで、意見交換や学び合いの機会も増えると考えている。
	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②家庭や地域と連携した継続的な支援	・昨年度、個別の教育支援計画の活用について呼びかけたが、まだ有効な活用ができていないという意見も上がっており、活用についてはまだ課題がある。	・教職員が、個を語る会や懇談で個別の教育支援計画の検討や修正を行い、サービス担当者会や支援会議等で目標や支援内容を確認したりしている。	・個別の教育支援計画の定期的な検討や修正の時期に呼びかけを行い、活用場面（指導計画・授業計画の検討時、サービス担当者会、現場実習打合せ、学びの場の検討時等）で目標や支援内容を確認したり反映させたりするよう適宜伝える。	・年度始めの教育支援計画検討や修正、保護者への提示は予定通り実施できた。サービス担当者会での確認・見直しについては適宜声かけを行った。今後、校内体験入学や学びの場の検討時の資料としての活用を予定している。	B	・様々な機会を捉えて確認し、加除修正を加えて、保護者や関係機関との共有や次年度への確実な引き継ぎにつなげられるよう、継続して内容の充実に努める。
インクルーシブ教育部 交流教育課	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②地域社会において本校の子ども達のことを知ってもらうための交流及び共同学習の実践	・学校間交流や出身地域校交流など交流する機会が増えている。地域での交流も少しずつだが増えている。さらに地域の方々に本校の子ども達のことを知ってもらい理解につなげるために、地域での交流を推進していく必要がある。	・地域の方々に皆生養護学校の子どものことを知ってもらう機会や交流を増やすための工夫を考えたり、取り組んだりすることができる	・共生社会を意識した交流活動を推進できるよう、交流の意義を教職員に研修等を行い意識を高める。 ・地域での交流を推進するために、『皆生交流人材バンク(仮)』を作成したり、子ども達の実態に合わせて学習に地域の方をゲストティーチャーとして招くなどの活用方法を考えたりを各学部で行い共有を行う。	・『インクルーシブ教育研修』『皆生地域交流人材・資源バンク』の研修を行った。交流の意義や、授業で活用できる地域の人材、資源について意見交換し、集約をした。研修後のアンケートでは「地域の人材や資源を活用してみたいと思いますか?」の問いに肯定的な回答が100%であった。	B	・学部の学習グループごとにまとめた『皆生地域交流人材・資源バンク』を1つに集約し、継続的に更新、追加していく。 ・地域との関りや交流のさらなる充実に向けて、課題も含めて、検討を継続する。
	①主体的な学びの実現	①社会参加につながるICT機器の活用の推進	・eスポーツ、視線入力等のICT機器の自主研修を行ったり、皆生スポーツ広場主催のeスポーツ交流会を行ったりしていく中で、WECルームを利用する子ども達が増えたり、ICT機器を活用し授業に取り組んだりする教職員が少しずつ増えてきている。	・子ども達の社会参加につながる視点で、ICT機器の活用（例えば、視線入力を使い他校と交流をしたり、自己選択する学習にICT機器を活用したり等）を行うことができる。	・子ども達の社会参加につながるICT機器の活用の推進について、自立活動部や情報機器管理部などと協力体制を作る。 ・社会参加につながる視点でICT機器を活用し授業を行っている事例紹介を行う。	・ICT機器の活用研修を自立活動部、情報機器管理部、ICT支援員と協力し実施した。研修後のアンケートでは「学習に活用できそうですか?」の問いに肯定的な回答が98%であった。反面、「まだ一人では自信がない」「マニュアルがないと不安」などの意見も複数あった。 ・今年度、鳥取養護学校とeスポーツで交流を行ったり、米子南高校のeスポーツ部との交流を行ったりした。	B	・自立活動部や情報機器管理部と協力をしながら、ICT機器を活用する上で教職員の不安や課題に応じた環境づくりを進め、授業への活用に生かしていく。また、ICT機器を活用し授業を行っている事例紹介を行っていく。
人権・福祉教育部 インクルーシブ教育部	①主体的な学びの実現	①人権教育を通じて育てたい資質・能力を育むための職員の教育力の向上	・職員アンケートでは、「職員の人権意識を向上させる必要がある」という意見が複数あった。近年の社会情勢の変化を踏まえ、様々な人権課題に触れ、職員の授業力を向上させる必要がある。	・研修や様々な人権課題に触れることが、子どもの興味・関心を引き出す授業作りに役立っている。	・ここ数年取り扱っていない、主体的な授業づくりに向けたテーマで職員研修を実施し、視野を広げる。 ・コンプライアンス研修等と連携して、発信・啓発していく。	・7月に「人権学習の授業づくり」をテーマに職員研修を行った。縦割りグループで過去2年間の実践記録を見合い、効果的な指導教材や指導方法を学び、視野を広げた。グループで活発な意見交換を行う姿が見られ、授業について考える機会になった。「参考になった」という意見が80%を超え、「学部を越えて実践記録を見ることで今後の指導に生かせそう」、「人権教育は教育活動全般で行うという再認識をした」等の感想があった。	B	・他校の人権教育公開授業の案内や人権研修の参加を掲示板などでお知らせし、参加を促す。 ・11月の人権教育参観日に向けて、学習グループで意見交換しながら授業づくりをしていく。 ・コンプライアンス研修等と連携しての発信・啓発については、後期に計画している。
	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②社会参加に向けた、育てたい資質・能力の育成	・職員アンケートでは、「人権教育年間指導計画を担当が作成し、級外が目にしたりと共通理解したりすることがない」、「「育てたい資質能力を年間を通して意識するために、確認する機会を定期的にもっては」という意見があった。	・一人一人の幼児児童生徒の育てたい資質・能力を教職員で共通理解して、年間取り組むことができる。	・人権教育全体計画を教職員に周知し、学校教育全体で人権教育に對する意識を高め、教育実践につなげる。 ・個を語る会、個別の指導計画検討会等の機会に、人権教育年間指導計画の確認や意見交換の場を設け、目標設定から評価まで関わっている教員で共通理解する。	・4月に人権教育全体計画についての研修を実施した。 ・各学部の学習グループで人権教育年間指導計画を共通理解する場を設けた。目標達成のために、取り組むべき内容など意見交換した。	B	・今後の指導や評価について、学習グループで意見交換や共通理解する場を設ける。

様式 3

保健安全部  保健指導課	③安心・安全な学校体制の構築	③関係者間でのスムーズな連携	・医療的ケアやその他疾患による配慮、安全上の配慮が必要な幼児児童生徒が多く在籍しており、対応も個別性が高く、安心安全のために確実にを行う必要がある。そのために連携や相談が日常的に必要である。	・医療的ケア等の配慮が必要な幼児児童生徒の対応が関係者と円滑にできている。	・日常的に保護者や教職員、必要に応じて学校医や医療機関と幼児児童生徒の様子や医療的ケアについて情報共有する。（口頭、基本台帳、紙ベースにて） ・個別の緊急対応マニュアルやチェック表等の作成を関係者で行い、随時点検や修正をしながら共有し、より安心安全をめざす。 ・学校保健委員会を参観日に設定し、保護者参加を広げて本校の学校保健について啓発を行う。 ・学校医や専門家による職員研修を行い、理解を深める。	・関係者とその都度幼児児童生徒の情報共有ができ、指示書の変更や追加等すみやかに対応できた。 ・緊急搬送が4月から4回あり、個別の緊急対応マニュアルに沿って対応することができた。 ・学校医による職員研修では、入学生疾患理解やエビベン訓練ができ、タイムリーな研修を実施することができた。	A	・引き続き、これまでの方策を続ける。 ・来年度に向けて、入学生の情報収集などアンテナ高く行う。 ・これから来年度にむけての書類の整え等始まるため、早めの行動に心がけ、丁寧に実施する
	②地域社会で豊かに生きる学びの実践	②インクルーシブフード啓発への取組	・食育だよりの発行や学校給食週間での取り組みにより、食育への関心が高まってきた。 ・校外学習等で食形態について外部の方に説明し協力を依頼するが、説明に時間がかかる。	・教職員がインクルーシブフードについて知り、良さや啓発の意義を理解する。	・職員から聞き取りやアンケートを行い、外部に食事を依頼する時に課題となっていることを整理し、周知する。 ・アンケートを受け、外部に説明する際に活用できる映像資料の作成を行う。 ・職員で視聴した後に、再度アンケートを実施する。	・本校が考えるインクルーシブフードへの取り組みに沿った動画作成のため、校外学習等で外部に食事を依頼する時の課題を聞き取り、周知を行った。 ・映像資料については、調理業者の協力を得て形態食の調理工程、様子を撮影し、映像編集業者とやりとりをしながら動画編集を進めている。	C	・10月中に初版の動画を教職員で見て、内容や伝え方についての意見を集約し、改善に生かす。
	③安心・安全な学校体制の構築	③発災時や事後対応の整理	・発災時、発災後の対応がケースによりさまざまで、確認に手間取り、すぐに行動に移しにくいことがある。	・発災時、発災後の対応が、わかりやすく、行動に移しやすいものになっている。	・発災時等の諸対応を整理し、常時可視化できるようにする。 ・訓練等を通して、対応の見直しと改善をはかる。 ・危機管理マニュアルの改訂を行う。 ・外部専門家から助言をいただき、改善をはかる。	・発災時等の迅速な対応のため、備品の配置を可視化した。 ・訓練等を通して対応の見直しを図った。 ・危機管理マニュアルの改訂を行った。	B	・これから実施する訓練等においても、対応の見直しを図っていく。 ・行動の可視化のための提示方法を検討し、掲示する。 ・外部専門家に、危機管理対応のあり方について助言を求める。
	④分担と協働による学校運営	④分担と協働による学校運営・働き方改革	・声を掛け合って年度始の業務をしており協力的な雰囲気である。 ・時期や業務によって時間外が多くなる教員がいる。	・自己や周囲の働き方を意識して、80%以上の教職員が具体的な改善に取り組んでいる。	・衛生委員会を活用した働き方の分析と取り組みの発信 ・働き方を考える話し合いの実施 ・勤務実績入力をおした自己の働き方の確認と改善	・衛生委員会で各学部等の状況や意見を集約し協働して業務に取り組むための方策について分析・立案した。 ・夏季休業中に全教職員がこれからの学校と働き方を考える機会をもち、その内容を活かして改善に向けて取り組み始めている。	B	・衛生委員会でのテーマを設定した調査を引き続き行いながら、時期ごとの課題を蓄積しつつ分担と協働を進めていきたい。 ・勤務実績入力については声掛けにより適切な運用・管理をする者が増えているが、定着するように取り組んでいきたい。
	○その他	教育資源及び環境の適切な整備	・特色ある教育活動の支援、施設・設備の老朽化による修繕の必要性または安心安全な教育環境の整備のため、中長期的計画が必要である。	・主体的な学びの実現のために必要な教育資源（人・もの・金）を効果的に調整・調達する。 ・安心・安全な教育環境となるよう施設・設備・教具の整備及び維持・管理を行う。	・予算状況について複数で執行管理し、教職員へ定期的に情報提供を行い、早期に事業効果が発揮されるよう計画的に執行する。 ・施設修繕については、教育委員会で策定された長寿命化計画に併せて、学校内で課題を整理し、優先順位をつけて予算要求する。	・企画委員会(7/9)で予算執行状況を報告した。今年度は予算を前倒して執行している。 ・施設修繕について、教育活動に支障がないよう考慮しながら計画的に実施している。 ・臨時営繕についても迅速に対応している。 ・本校の課題や教育目標に応じ、令和8年度の修繕要望を提出した。	A	・事務室内での情報共有はもちろん、校内での情報共有をさらに密にする。 ・常に改善の視点を持ち業務を行う。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し  
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】